

溝辺町郷土誌 続編一





スポンサー各位
より設置されま

町役場 企画振興課
会社 コスモプラン



至篠原

至えびの

至栗野

竹川ソーメン流し

ブドウ狩り ナン狩り

ブドウ狩り

りんご狩り 稲荷神社

あたご神社

竹子

釣り漁り

長北湖

農民の森

平野川

有川

馬場寺

ぶどう狩り

ぶどう狩り

楽翠の森

竹山ダム

貫水峡ソーメン流し

至蒲生

年中行事

- グリーンエリート競走大会・・・3月中旬
- 前玉神社春季大会・・・3月28日
- いちご狩り・・・4月下旬～6月中旬
- 山桃狩り・・・7月上旬
- ぶどう狩り・・・7月下旬～9月下旬
- 夏祭り大会・・・7月下旬
- 歩け歩け大会・・・7月下旬
- りんご狩り・・・8月中旬
- なし狩り・・・9月～11月
- ふるさと祭り・・・11月3日

この案内図は広告掲載
・溝辺町役場の御協力
した。

監 修：溝辺
企画・製作：有

溝辺町郷土誌 続編一



溝辺町の『み』を図案化して、
本町の和と躍進の姿を象徴し
たもの。

溝辺町章の制定

昭和44年4月1日の町制施行10周年記念事業の一環として町章制定の気運が盛り上がり、町内外に広く呼びかけて募集の結果、多数の作品が寄せられた。

早速、選考委員会を開いて慎重な審査が行われ、次の方の作品が最優秀賞に入選し、町章に採用された。

住所 宮城県仙台市北2番丁133番地

氏名 三浦 明 (50歳 公務員)

溝辺町町民憲章

昭和44年4月1日制定

私たちは遠い祖先より受け継いだ、みどりの山河、美しい人情、歴史に輝く伝統を背景として、郷土愛とたくましい生活意欲をもって住みよい豊かな溝辺町を建設するためにこの憲章を定めます。

<考 え 方>

<方 向 づ け>

心を合わせて 平和な町を築きます。	○総 親 和 ○精 神 運 動	○善意の出発 ○協 調 性 ○自主・責任 ○親切運動
きまりを守り 住みよい町を築きます。	○法治国家としての よい市民性の育成	○明 正 運 動 ○交通安全 ○伝統と文化 ○時間厳守
生活を工夫し 豊かな町を築きます。	○勤労意欲と生産性 の向上	○生 産 学 習 ○新生活運動 ○生 活 改 善 ○貯蓄推進
体をきたえ 明るい町を築きます。	○健康と町内美化	○社 会 体 育 ○健康管理 ○三 不 い 運 動 ○環境衛生
楽しい家庭をつくり しあわせな町を築きます。	○家庭と人間関係 ○社会連帯感	○家 庭 の 日 ○青少年育成 ○話し合い学習○報恩感謝

町花・町木の設定について

1. 選考基準

- (1)栽培容易なもの
- (2)普及性のあるもの
- (3)本町に根をおろしたもの
- (4)できるだけ実益を兼ねるもの
- (5)毒性のないもの
- (6)できるだけ多年性のもの（花の場合）

(7)常緑のもの（木の場合）

2. 応募数

町花 40点

町木 41点

3. 設定年月日

昭和46年2月10日



町花

梅

入選 有川溝口 中山文男

バラ科に属し原産は中国といわれるが、わが国でも古くから親しまれ、万葉集、古今集などにも数多くうたわれている。

極寒に耐え、春にさきがけて花をつけるさまは「忍耐努力」に通ずる。特に清楚で美しく、香り高い花は古くから広く親しまれている。また梅干しは食物の腐敗を防ぎ消化を助けるとして、昔から珍重されている。

町木

しゅろ

入選 有川溝口 満塩 清

ヤシ科の常緑樹。

原産地は明瞭でないが、南九州ともいわれる。

野趣に富み、南国的情緒豊かで、街路樹、庭園樹としてよい。

最近化学製品におされて全くかげをひそめたが幹皮の繊維でつくったしゅろ縄、ブラシ、ほうきなどは古来生活の必需品として広く活用され親しまれてきた。



溝辺町民歌

昭和50年11月3日文化の日、中央公民館において溝辺町民歌の発表があった。入選 岩元喜吉（溝辺町有川）
 発表は、溝辺中学校ブラスバンドと、佳作 池沢貞子（〃 中野）
 歌は溝辺中学校教諭徳留美智子、東芝レコードのはじめあきらの両氏である。佳作 花堂三男（〃 石原）
 町民歌は、町内外から多数の応募があったが、選考委員会で選考の結果は、次 作曲は、溝辺町出身の岩元寛氏（鹿児島市在住）でレコード化された。

溝辺町民歌

作詩 岩元喜吉
 作曲 岩元寛

一、
 みどりの森よ 山陵の
 嶺にひらける エアポート
 文化を運ぶ ぎんよくに
 ああ、青空の 幸をくむ
 伸びゆく溝辺
 わがふるさと

二、
 上床やまの 若葉かげ
 巢立つ小鳥の 生きいきと
 あがるうたごえ 高らかに
 ああ、清新の 風がなる
 育てむ溝辺
 わがふるさと

三、
 かがやく大地 噴く水に
 勤勞の意気 たくましく
 豊かなみのり 築く手に
 ああ、躍進の 明日をよぶ
 興さむ溝辺
 わがふるさと

溝辺町民歌

歌 はじめあきら
 徳留美智子

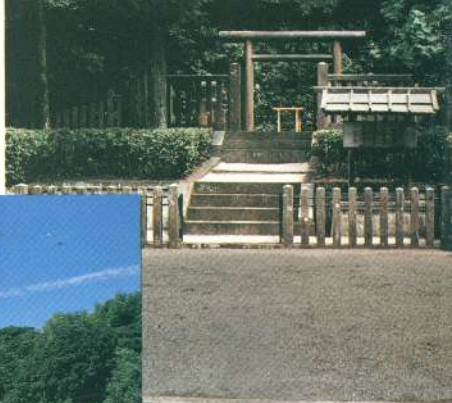


溝辺町全図





役場庁舎



高屋山上陵



上床公園



行幸記念碑



西郷隆盛像



青少年育成塔



空 港



高 速 道



町有林



県民の森



ぶどう狩り



竹山ダム

初版以後の首長、議長



第12代議長
今吉 進



第11・13代議長
末重忠男



第10代議長
重丸三郎



第5代町長(現)
今吉 衛



第16代議長
満塩郁夫



第15代議長
野間重雄



第14代議長
延時力蔵

溝辺町表彰条例に基づく一類功労表彰

昭和51年11月3日



松 山 績

功績 町教育委員長24年、町社会福祉協議
会長、町体協長、教育文化福祉産業
各般に貢献する

略
歴

明治31年

7月5日竹子二四三二番地に松山甚士・エイ

明治45年

殿の長男として御誕生
溝辺尋常高等小学校高

大正3年

等科に入學
右、3年卒業 試験検

定により尋常小学校准

教員を免許する。

清水村(現国分市)木

大正5年

原小学校准訓導
試験検定により尋常小

学校本科正教員たるこ

とを免許され稲葉小訓

導に任ぜらる。

大正8年

試験検定により小学校

本科正教員たることを

免許する。

大正9年

溝辺尋常高等小学校訓

導

昭和16年

溝辺国民学校教頭に補

す。

昭和19年

加治木町中野国民学校

長に任ず。校長を退職

昭和22年

精米・製茶工場設立

昭和27年

第一回教育委員選挙に

当選 委員長就任

昭和24年

町初代商工会長に就任

昭和25年

町タバコ耕作振興会長

昭和51年

に就任26年辞任 校歌
制定(松山先生作詞)
町教育委員(委員長)
を退任 文化の日に溝
辺名誉町民第一号の栄
誉に浴する。

昭和60年

叙勲勲五等瑞宝章

続編刊行のことば

鹿兒島空港開港を記念し、溝辺町郷土誌が発刊されたのが昭和四十八年十一月三日。当時の編集委員長は故人となられた名譽町民松山績先生。無から有を生み出す幾多の困難を乗り越えて、三十余名の編集員の汗と努力の結集により五〇〇ページの立派な郷土誌が誕生したのであります。以来十余年、当時の編集員の半数以上の方々のご他界されているのでありますが、そのご冥福を祈りながら郷土誌に寄せられた松山先生の『方丈記』の一節を思う。

「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。世の中にある人と住み家とまたかくの如し」

今、ここに町制施行三〇周年を迎えるに当たり、郷土誌の続編が刊行されるのでありますが、古代三山陵のひとつ高屋山上陵のご在所である溝辺町が、悠久の歴史の上に、その時代の先達が、郷土を愛する愛と汗によって今日の美しい山河、活気にあふれた故郷を築いてきていただいた足跡を、正しく次の世に伝え、将来を展望する確かな指標とするためにも、極めて意義深いものであると信ずるものであります。今、国の内外を問わず厳しい経済社会の中にあります。この時に我が町は、長い歳月と多額の費用を投じてきた土地改良事業により、畑地かんがいと擁る台地農業を展開することとなりました。また、彫刻の大家、故古賀忠雄先生の力作による「現代を見つめる西郷隆盛像」が、多くの人の善意と浄財により鹿兒島空港前に建立されました。ぬくもりに満ちた活力あるまちづくりを進めるためには町民すべての英知と団結と努力に期待されるところが大きいのであります。やがて訪れる二一世紀に向けてさらに

大きく前進する郷土溝辺の姿を想像しつつ、郷土誌統編編集にご尽力いただきました各位に心から敬意と感謝の意を表し、私のことばと致します。

平成元年四月一日

溝辺町長 今 吉 衛

郷土の發展を託して

町制施行三〇周年記念事業の一環として、溝辺町郷土誌の続編が発刊されることは、本町が發展した変容のあかしであり町民こそ喜び合いたい。

郷土とは、そこに川があり、山があり、台地がある。住宅や公共施設がある。道路、橋もある。学校もあれば病院もあり、文化財もある。郷土は人間が生きるための指標になり、郷土が生きるための励まし、慰め、規制する力となるものである。真に郷土を知る人間は、郷土に顔向けのできる人間になろうとするものである。

溝辺町は昭和四十七年四月、十三塚原の台地に鹿児島空港が開港してから満一五年を迎え、空港という巨大な活動体の余波をもろに受け続けている。それまでは深刻な過疎にあえいでいた陸の孤島ともいうべき、交通に恵まれない町が、新しい溝辺の夜明けとしてさまざまな変容ぶりを見せている。空港はどこにも負けない本町が誘致した大企業。つぶれる心配はない過疎化に歯止めをつけた人口増、年間七〇〇万人が集まる空港のおかげで町の財政も潤う。さらに開港の見返りで実現をみた竹山ダム、先人たちが台地に水を引く夢を抱き続けたその夢が、今近代農業の第一歩として念願の水に期待を寄せている。竹山ダムからの完全通水は平成二年の見通しだ。水を生かした特産のお茶、スプリンクラー散水による「フライト農業」こそ、溝辺に最もふさわしい農業である。

県内では中央の大消費地に一番近く「東京都溝辺町」という人もいる。地理的優位（東京九五分）を生かして、将来の台地農業の活路を開こうとする意気込みが、二一世紀に向けた郷土づくりとして、将来への展望に夢と希望をあなえ、親しまれる郷土誌でありたい。

特筆として、「現代を見詰める西郷隆盛」の像が昭和六十三年八月二十八日、鹿児島空港前広場で除幕され、堂々たる姿を現したものである。新しい町のシンボルとして大西郷の御利益が意義深く期待される。

この郷土誌は、有馬四郎前町長を会長に、行政、産業、教育の三領域に組織された編集委員のご努力により発刊したものである。心から敬意を表し、本誌が郷土の発展に役立つようご祈念申しあげる次第である。

平成元年四月一日

溝辺町教育長 萩 田 三 郎

稿を終えて

豊かなみどりに包まれ、小川のせせらぎを友として大自然に育ちゆく子ら——その目、その笑顔、その手足に、果てしなく拓けゆく未来の姿が浮かぶ。時は人をつくり、人はまた時をつくる、果てしない溝辺のために。時は流れても人の心は常に新しく永遠につないで行く清新な流れ、不変の歴史の中に脈々として生き、支えていることを自然の理としてあらためて感じ入る今日このごろである。

石川啄木の「ふるさとの山に向ひていふことなし」という名言は全く飾り気のない素直にすべてをいい現している真実をみることが出来る。そこに感謝があり、希望があり、創造がある。「誠は天性自然の道であり、誠になろうと努めるのが人の道である」という訓^{おしえ}がある。学ぶべき人生訓でありその積み重ねで心に残るふるさとがつくられてきた。

昭和四十八年発刊の溝辺町郷土誌初版はそれらの清き流れを、みんなで見よう、みんなで知ろう、みんなで活かそう、大切にしよう——と、松山委員長を中心として多くの有志・諸賢が編集員・調査研究員として東に走り、西を訪ね、古文を繕^{ひもと}き、原始・古代・中世・近世へと貴重な資料をよく整えて頂いた。その労苦と業績は今更ながら頭の下がる思いである。益者三友（直・諒・多聞）、学べ吸収せよ——私共は後世にそのことがらを正確に忠実に絶えることなく伝えてゆかなければならない。今ある溝辺の礎は先覚者の適切な判断とたくましい農魂と汗とによってつくられてきた。未来の福田を蒔く、常に恩に報い、力を合わせ、そうしてすべてに感謝する気持を忘れてはなるまい。

溝辺町民歌の一節に「かがやく大地、噴く水に、勤労の意気、たくましく、豊かなみのり築く手に、ああ躍進の明

日をよぶ、興さむ溝辺、わがふるさと」とある。希望の中に前進があり、希望の中に未来がある。

郷土誌統編第一号の編集に当たり、県・町・各種機関・団体から貴重な資料を積極的に御提供頂いた。編集員・調査研究員・主筆一同と共に心から厚く御礼を申し上げます。平成元年四月町制施行三〇周年の記念すべき年の発刊となるが、内容にはなお不十分な点も多く、誤記・不備なところもあろうかと危惧の念にたえない、その点何卒御寛容を賜りたい。ただ本誌が村の流れを知るうえで何らかの参考になれば望外の喜びである。
最後に編集員・調査研究員・主筆諸兄の御労苦をねぎらい厚く謝意を表したい。

平成元年四月一日

溝辺町郷土誌(統編)編集委員長 有馬 四郎

目次

続編刊行のことば

郷土の発展を託して

稿を終えて

序編

一 時代の変遷への対応	二
二 地方の役割	四
三 長期計画の方針	五

第一部 総編

第一章 溝辺の素顔	一八
第二章 地籍・人口の変遷	二〇
一 地籍調査事業の概要	二〇
二 人口の推移	二四
第三章 産業の形態	二六
第四章 空港・九州縦貫自動車道	二八
一 鹿児島空港	二八
二 九州縦貫自動車道	四八
第五章 自治組織と町民の集い	五一
一 自治公民館制度の歩み	五一
二 自治公民館連絡協議会の活動	五六

第二部 行政編

三 公民館の活動	六〇
四 地区公民館の建設	六三
五 町民の集い	六四
第六章 大字組織と地域活動	七三
一 財団法人有川育英会	七三
二 財団法人竹子共正会	七四
三 三縄自強会	七八
四 麓生産森林組合・麓公正会	七九
五 崎森共志会	八〇
第一章 議会	八四
一 議会審議の状況	八四
二 特別委員会	八四
三 表彰等	八六
四 歴代議長、副議長	八六
第二章 行政・組織・機構	八八
一 歴代三役	八八
二 歴代首長とその周辺	八八
三 行政機構	八九
四 溝辺町開発公社	九〇
五 鹿児島県町村土地開発公社	

溝辺町支社	九二
-------	----

六 町民表彰	九四
--------	----

七 庁舎建築	九六
--------	----

第三章 企画・財政	一〇〇
-----------	-----

一 基本構想	一〇〇
--------	-----

二 長期振興計画	一〇三
----------	-----

三 過疎計画	一一七
--------	-----

四 広城市町村圏行政	一二五
------------	-----

五 財政	一二七
------	-----

第四章 消防・安全対策	一四二
-------------	-----

一 消防	一四二
------	-----

二 交通安全対策	一四六
----------	-----

第五章 溝辺町における選挙	一五〇
---------------	-----

第三部 産業編

第一章 農業振興基本方針	一六〇
--------------	-----

一 基本方針	一六〇
--------	-----

二 農村振興運動	一六五
----------	-----

第二章 農業の動態	一六七
-----------	-----

一 基本課題	一六七
--------	-----

二 就業構造の動向	一六八
-----------	-----

三 農家人口	一七一
--------	-----

四 就業構造	一七三
--------	-----

五 農家構成の動向	一七三
-----------	-----

六 土地利用の現状	一七六
-----------	-----

七 農業生産の動向	一七九
-----------	-----

八 産業別生産額と所得の動向	一七九
----------------	-----

九 最近の農業の状況	一九四
------------	-----

一〇 水田利用再編対策・水田農業確立対策事業	二〇〇
------------------------	-----

一一 活動火山防災営農周辺地域整備事業	二〇三
---------------------	-----

一二 農業振興団体	二〇六
-----------	-----

第三章 農業委員会と土地利用	二一〇
----------------	-----

一 農業委員会	二一〇
---------	-----

二 土地利用の変遷	二一七
-----------	-----

第四章 土地改良と水	二一九
------------	-----

一 土地基盤の整備	二一九
-----------	-----

二 県営畑地帯総合土地改良事業	二二一
-----------------	-----

三 土地改良区	二四六
---------	-----

第五章 農業諸団体	二七三
-----------	-----

一 溝辺町農業協同組合	二七三
-------------	-----

二 始良地区農業共済組合	二八六
--------------	-----

三 農村婦人活動	二九一
----------	-----

四 4 Hクラブ及び青年	二九一
--------------	-----

農業士・指導農業士……………二九三

第六章 林業と治山……………二九七

一 林業振興の基本方針……………二九七

二 森林整備の基本方針……………二九九

三 森林総合整備事業……………三〇〇

四 県林業関係資格認定……………三〇一

五 治山事業……………三〇五

六 入会林野整備事業……………三〇九

七 森林組合の広域合併……………三一〇

第七章 商工業……………三一五

一 商業……………三一五

二 進出企業……………三一五

三 商工会……………三二一

第八章 自然と観光……………三二三

一 観光……………三二三

二 上床公園の「二千本桜」……………三二四

三 県民の森……………三二四

第四部 住民福祉編

第一章 民生・福祉……………三三四

一 住民福祉……………三三四

二 老人福祉……………三四〇

第二章 生活と水（飲料水）……………三四八

第三章 医療・保健……………三五六

一 疾病と医療……………三五六

二 平均余命……………三六〇

三 歯科診療所……………三六五

四 環境衛生……………三六八

第四章 福祉団体と施設……………三七〇

一 溝辺町社会福祉協議会……………三七〇

二 特別養護老人ホーム……………三七三

第五章 みぞべ温泉……………三七四

一 誕生までの経過……………三七四

二 成分など……………三七六

第五部 交通・通信・土木編

第一章 交通……………三八〇

一 交通圏域……………三八〇

二 交通量の変遷……………三八一

三 県道・町道の現況……………三八一

第二章 通信……………三八四

一 郵便……………三八四

二 電話・放送……………三八六

第三章 河川と治水……………三八七

第四章 防災	三八九
--------	-----

一 河川	三八九
------	-----

二 急傾斜地崩壊対策事業	三八九
--------------	-----

三 台風・豪雨・桜島降灰の記録	三九三
-----------------	-----

第五章 都市計画	四〇六
----------	-----

一 都市計画区域指定の背景	四〇六
---------------	-----

二 これからの都市計画	四〇六
-------------	-----

第六章 住宅	四〇八
--------	-----

一 公営住宅	四〇八
--------	-----

二 一般住宅の新政策と安全対策	四〇九
-----------------	-----

第六部 教育・文化・体育編

第一章 学校教育	四一二
----------	-----

一 溝辺小学校	四一三
---------	-----

二 陵南小学校	四一四
---------	-----

三 竹子小学校	四一六
---------	-----

四 溝辺中学校	四一七
---------	-----

五 陵南中学校	四一九
---------	-----

六 陵南幼稚園	四二一
---------	-----

七 教育委員会	四二三
---------	-----

八 給食センター	四三六
----------	-----

第二章 社会教育	四三八
----------	-----

一 社会教育委員会	四三八
-----------	-----

二 公民館読書活動	四四〇
-----------	-----

三 県PTA活動研究公開	四四二
--------------	-----

四 溝辺町の婦人活動	四四四
------------	-----

五 青年団連絡協議会	四五一
------------	-----

六 青少年の家の建設	四五三
------------	-----

七 竹子青少年会館の建設	四五三
--------------	-----

八 高校生父母の会の発足	四五四
--------------	-----

九 青少年育成町民会議の発足	四五七
----------------	-----

一〇 上床公園キャンプ場	四六一
--------------	-----

第三章 文化と史蹟	四六二
-----------	-----

一 文化財の指定	四六二
----------	-----

二 埋蔵文化財	四六四
---------	-----

三 文化協会の設立	四七〇
-----------	-----

四 十三塚原海軍特攻慰霊碑	四七三
---------------	-----

五 西郷隆盛像の建立	四八三
------------	-----

第四章 社会体育	四八五
----------	-----

一 体育協会の発足	四八五
-----------	-----

二 体育指導委員の設置	四八六
-------------	-----

三 総合グラウンド	四八八
-----------	-----

四 総合体育館	四八九
---------	-----

五	テニスコート	四九三
第五章	顕彰	四九五
第七部	溝辺とむかし	
第一章	地名についての一考察	四九八
第二章	溝辺のむかし	五〇二
一	方言	五〇二
二	ことわざ	五〇七
三	郷土の童歌と遊び	五一五
四	溝辺の伝説と民話	五二二
五	農業開拓史の中から	五二八
六	上十一月田池由来	五三三
七	米価のうつりかわり	五三五
第八部	明日への期待	五三九
	天皇陛下崩御	五四七
	皇太子明仁親王御即位	五四九
改元		五五一
年表		五五三
初版の補完・修正		五六七
編集後記		